

広報

くどやま

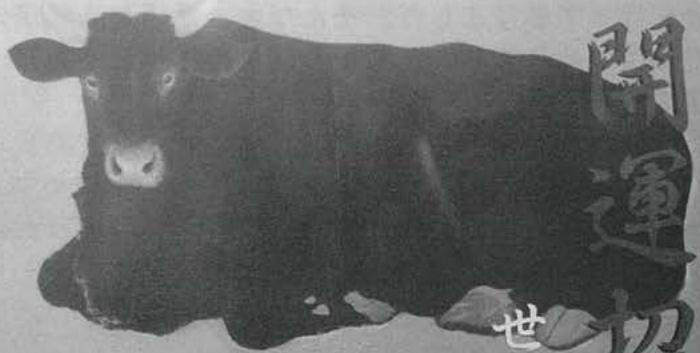
2021

1 月号

NO. 543

令和
五年

丑年



世界遺産

開運招福

あけましておめでとうございます。

今年は丑年です。さらなる飛躍にむけ一歩一歩踏みしめて、歩みは遅くとも、顔をあげて進んでいきましょう。

表彰・感謝状

町長が100歳をお祝い

11月9日、岡本町長が100歳を迎えた井上ノブエさん、櫻井信乃子さんを訪問し、記念品をお渡しして、長寿をお祝いしました。いつまでもお元気で長生きしてください。



▲ 井上ノブエさん



▲ 櫻井信乃子さん

感謝状をお贈りしました。



▲ 丹下義信さん(左下) 現会長 中谷裕一さん(右)

10月20日、九度山町河南道路建設促進協議会の会長を務められた丹下義信さんの中谷裕一現会長とともに訪問しました。

丹下義信さんは、会長としてフルーツラインやふるさと農道などを建設する際、地元との用地交渉などに平成3年より長きににわたり、ご尽力いただきました。

この度、退任されたことにもない、感謝状をお贈りいたしました。

長い間ありがとうございました。

令和2年度全国老人クラブ連合会会長表彰「老人クラブ育成功労」受賞

11月25日、和歌山県民文化会館で開催された和歌山県老人クラブ連合会会長表彰式において、全国老人クラブ連合会会長表彰伝達式が執り行われ、下坊陽規さん(下古沢)が全国老人クラブ会長表彰「老人クラブ育成功労」を受賞されました。

下坊さんは平成19年から令和2年8月まで、大槌クラブ会長、平成26年より九度山町老人クラブ連合会会長に就かれ、介護予防やゲートボールにも積極的に活動されています。

また、会員増強にも熱心に取り組まれ、老人クラブの育成発展に貢献し、その功績が顕著であると認められ、受賞されました。



▲ 下坊陽規さん

令和3年 新年のごあいさつ

新たな生活様式の中でも日本一元気なまちへ



九度山町長 岡本 章

新年、明けましておめでとうございます。

町民の皆さま方には、輝かしい新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

また、平素より町政の推進に温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が流行し、史上初となる緊急事態宣言が発令されるまでに至りました。今まで経験したことのない状況の中で、学校教育や福祉事業の継続、各種施設の運営等について、各自治体による判断が求められ「地方自治」について改めて考えさせられる一年となりました。

更に、「新しい生活様式」が推奨され、日々の生活にも様々な制約が課されることとなりました。その結果、「真田まつり」や「くどやま芸術祭」、「大収穫祭」といった、当町を代表するイベントのみならず、「敬老会」をはじめとした町民向けの行事等についても中止・規模縮小を余儀なくされたことは非常に残念でなりません。

当たり前な日常を営むことができない日々が続いておりますが、少しでも皆さまのお役に立てればと、マスク・ゴミ袋の配布や水道使用料及び給食費の6ヶ月無料化など、生活に寄り添った支援を行って参りました。そんな中、夏頃から経済活動を促しはじめ、晩秋にかけて賑わいが回復しつつありました。しかし、冬の訪れとともに、感染拡大の第三波が猛威を振るうこととなりました。

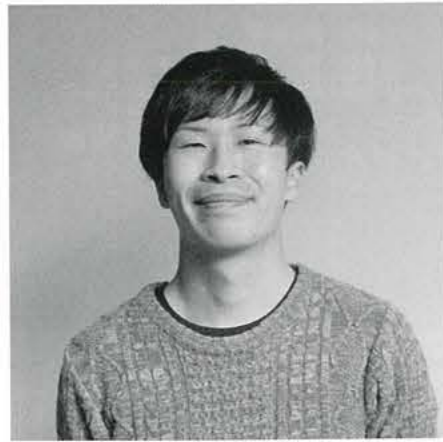
このような状況で迎える新年ではございますが、町民皆さまの安全と健康を第一としつつ、with コロナの時代に対応した観光振興や医療・福祉の充実、また、各種道路整備等を行い、住みよいまちづくりに向けた施策を遅滞なく行って参りたいと考えております。

まだまだ我慢の日々が続くことが予想されますが、町民の皆さまにおかれましては何卒、手洗いやマスクの着用等感染症対策を今一度徹底していただき、まずご自身の健康維持に努めていただきますよう強くお願い申し上げます。

困難な現状の今だからこそ、皆さまとの「知恵と対話」による創意工夫を凝らし、新しい生活様式の中でも「日本一元気なまち九度山」を目指して参りたいと考えております。どうか皆さま方には、引き続き格別なるお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、町民の皆さまのご健勝とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶と致します。





吉田 亮介
(中古沢)
平成9年生まれ

新しい年へ

新年あけましてめでとうございます。

今年、年男と知った瞬間、「もう24歳か！この間、小学校を卒業したばかりじゃなかったっけ。」という気持ちになりました。

昨年より、九度山小学校で勤務させていただいています。子どもたちはいつも元気いっぱい、毎日パワーをもらっています。子どもたちの発見や考えに驚き、ともに学ぶ日々はとても刺激的です。私は、子どもたちに、失敗を恐れない人になってほしいと思っています。人間だから失敗もあるけれど、そこから学べるそんな人になってほしいと思います。

今年は干支の丑のように、一步一步力強く前進し、日々成長していきたいです。

新年あけましておめでとうございます。

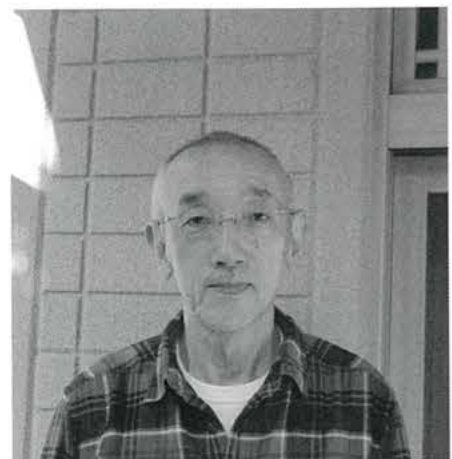
私は、同町の北叉で生まれ、久保小学校で3年生まで過ごし父の仕事の都合で転宅しました。ご縁から下古沢に嫁いで34年古沢の自然と地域の方々に見守ってもらいながら3人の子供も成長することができました。

専業主婦だった私は、柿の里振興公社の「さえもん」「直売所」での販売や接客、イベント等を通して町の内外的の方々たくさん関わる機会をいただきました。その経験はかけがえのない宝物になり、感謝の言葉しかありません。最近は、趣味のパッチワークや編み物などをしたり主人とともに野菜作りをして過ごしています。

最後に、コロナを乗り越えて当たり前の生活が一日でも早く迎えられるように、皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



中谷 恵子
(下古沢)
昭和36年生まれ



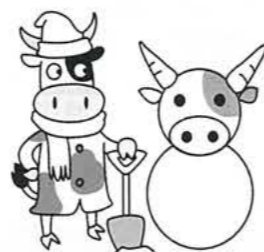
葭岡 甲
(河根)
昭和24年生まれ

あけましておめでとうございます。

2020年は、中国武漢発祥の新型コロナウイルス感染症が世界中に感染拡大し、東京オリンピック・パラリンピックが延期され、アメリカ大統領選挙も混沌とした激動の年でした。本年は平和で幸せな1年であることをお祈りします。

大東亜戦争後、「団塊の世代」「戦争を知らない子供たち」「新人類」と呼ばれながら、戦後レジームの中で、復興から高度成長して経済大国となり、科学の進歩とともに若者が未来に夢を見て自分の将来を描いた、日本の歴史の中で一番いい時代を生きてこれたと思います。

6回目の年男になりましたが、これからもこの国を愛する1人として、二千年の歴史を有し先人が築き上げてきた民主的で自由なこの国をこのふるさとを、大切に守り続けていくことを願っています。



丑年生まれ 年頭によせて



2021年の町内の年男・年女は344名です。

今年も丑年生まれの方の中から5名の方々に、年頭によせてさまざまな『思い』をつづっていただきました。

未来に向けて

明けましておめでとうございます。

私のしょう来の夢は、書店の店長になることです。私は、小学1年生の時、一冊の本に出会いました。その本がとてもおもしろくて、それから本が大好きになり、毎日いろいろな本を読んでいます。

今、周りではゲームをしている人が多く、「本なんてあまり好きじゃない。」という声をよく聞きます。だから私は、そういう人を少しでも減らしたいという思いで、今、図書委員として、未来に向けてがんばっています。

例えば、おすすめの本は、今の流行に合わせて選んだり、友達には、その子の興味があるものや好みに合ったものを考えて紹介したり…。読み聞かせも行っています。

これらの活動を中心に、今後もがんばります。本が好きな人が増える未来になるように。



森内 詩奈さん
(九度山小学校)
平成21年生まれ



古川 咲樹
(九度山小学校)
平成21年生まれ

努力の年

あけましておめでとうございます。新年をむかえるにあたり、1年をふり返ると昨年は今年の干支にちなんで「もう」が多い年でした。ついこの間まで1年生の気持ちだったのに、もう6年生です。そして4月にはもう中学生です。時間がたつのはこんなに早いのかと昨年を感じ、おどろきました。時の流れが早いと感じるのは私が特に何もしていなく、時間を有効に使えなかったからだと思っています。

2021年には中学生。環境が大きく変わります。部活も勉強もきちんとこなしていきたいです。時には努力、たまには休けいといったように、時間の使い方を工夫します。

中学生の私より、さらに先。将来の私のためにも、2021年は今まで以上に努力の年にしたいと思います。

日本拳法の試合が開催されました。

11月1日（日）、九度山文化スポーツセンターにおいて、日本拳法の練習試合が開催されました。湯浅・海南・和歌山市から、選手が集まり、それぞれ、日々の鍛錬の成果を出し合いました。白い胴着を身につけながら、あどけない姿で、準備運動をしていましたが、試合となると真剣なまなざしで相手と向き合いました。



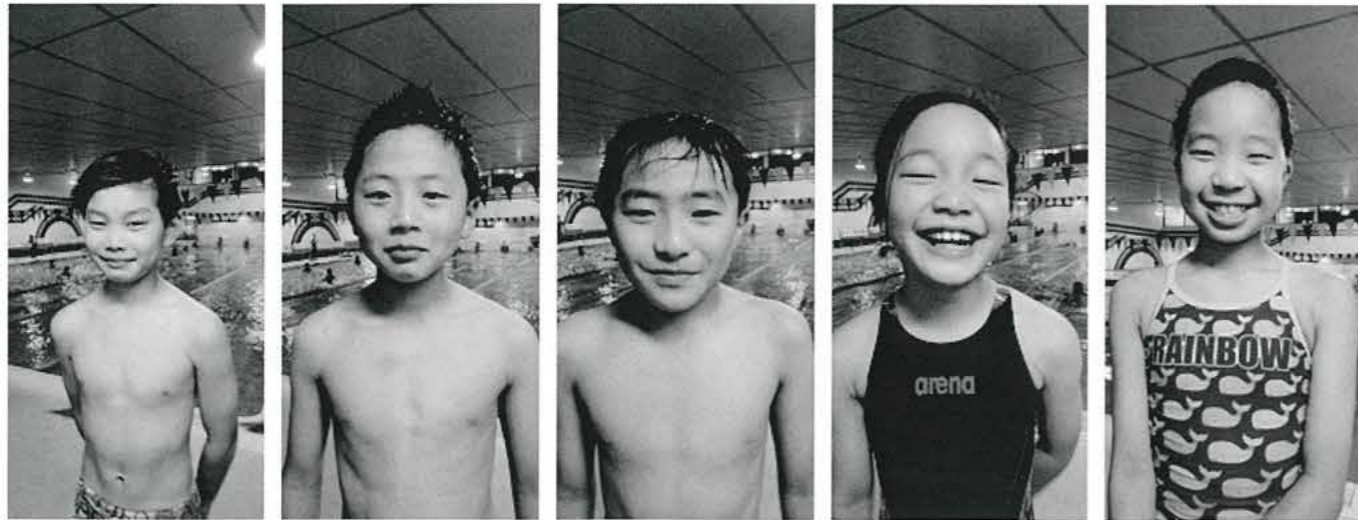
手作り甲冑が完成しました。

令和2年度9月号で掲載した手作り甲冑が完成しました。甲冑の紐の色もそれぞれで考えて選び、家紋やそのほかの小物まで、すべて手作りされたそうです。甲冑を着ると、顔も凛々しくなり、いつもより引き締まった顔になってました。今回撮影には、甲冑を作った北田さんの娘さんで写真家でもある北田瑞絵さんが撮影してくださいました。広報では、その写真を使用させていただいています。ありがとうございました。写真提供：北田 瑞絵さん 1991年生まれ、慈尊院。塩竈フォトフェスティバル2016大賞受賞 現在は、ESSEオンラインで、愛犬のブログを執筆中。



水泳で優秀な成績をおさめました。

10月25日、和歌山市秋葉山公園県民水泳場で開催された「第37回和歌山地域SC選手権クラブ対抗水泳競技大会」において、町内の小学生が優秀な成績をおさめました。



中野 魁 九小5年 男子10歳以下の部 100m 背泳ぎ 5位 50m バタフライ 7位	山本 峻生 九小4年 男子10歳以下の部 100m 平泳ぎ 8位	大谷 哲平 九小4年 男子10歳以下の部 50m 自由形 5位 100m 自由形 6位	速水 香苗 九小4年 女子10歳以下の部 50m 自由形 5位 100m 自由形 10位	中野 凧彩 九小6年 女子11～12歳の部 50m 平泳ぎ 5位 100m 平泳ぎ 3位
--	---	---	--	--

森の秋コンサート大盛況でした！

11月7日、くどやま森の童話館において森の秋コンサートが開催され、60人を超える多くの方が訪れました。今回は、チェロ奏者のロビン・デュブイ氏とギターリストの伊藤ゴロー氏のお二人で演奏されました。チェロとギターの音色に皆さん聴き入っておられました。



椎出文化財伝承館に鬼舞う

11月8日、中田龍鳳画伯によって椎出文化財伝承館の壁面に椎出鬼の舞の絵が描かれました。この壁画は、2～3年ほど前から河合椎出鬼の舞保存会前会長が、アートウィークの際、まちなかに描かれた中田画伯の絵画を見て、椎出でも描いてもらえないかと、住民クラブやアートウィークスタッフの方を通じて、中田画伯に承諾を得て連絡調整などを行い続けたすえ、描かれたものです。



現会長の野中浩三さんは、「前会長から『よろしく』と託された。住民クラブやアートウィークの方々にもたくさんお世話になって準備し、実現することができた。この壁面には、九度山を知ってもらって、椎出を知ってもらって、鬼の舞を広く知ってもらえたらと願いを込めました。」と、話してくれました。鬼が描かれていく壁面を見ながら、「鬼や、鬼や。」と世代を超えて、瞳を輝かせ誇らしげに話している地区の皆さんの姿がとても印象的でした。鬼の舞が大切に大切に伝承されてきていることが伝わる1日でした。

九度山ジュニアソフトテニスクラブが優秀な成績！

令和2年10月18日（日）と11月1日（日）に有田川町金屋テニス公園で第24回和歌山県小学生ソフトテニス秋季選手権大会が開催され当クラブが優秀な成績を収めました。

■結果

男子の部
優勝 中邑 夢弥（5年）・林 寿李稀（5年）
3位 木上 漣（6年）・海堀 大翔（6年）
10位 正野 雄隆（6年）・石井 義悠（6年）

女子の部
3位 北村 朱寿加（6年）・小山 希花（6年）
6位 中谷 璃音（6年）・馬場 穂佳（6年）
12位 寺岡 紗菜（5年）・井上 優衣奈（5年）



なお、12位までに入賞した選手は、令和2年12月5日（土）～6日（日）に滋賀県長浜市で開催される第24回近畿小学生選抜インドアソフトテニス大会に出場しました。



柿を次世代へ・・・

九度山名産の柿について学ぶ

11月13日、九度山小学校3年生が、中谷裕一さんの畑を訪れ、柿について学びました。毎年、3年生になると地域のことを学習する授業がもうけられ、その一環として、柿の栽培から収穫、選果場での出荷までを見学・体験し、学習するものです。児童は、中谷さんから栽培で苦労していることや、栽培の時に困っていること、大変なことなどの話を聞き、その後、1人1個ずつ柿の収穫を体験しました。まどめの感想には、「収穫が楽しかった。」「学校帰りに畑があるので様子を見ていた。」「栽培の大変さを知ることができた。」などと、感想を書いていました。



◎九度山町長賞
「豊かにする税金」 九度山中学校 3年 池田 有里菜

税金とは大きく言って日本社会全体を支えるお金のことで、国民全員から集められています。例えば消費税。物を買うとき、ご飯を食べるときなど、ものの値段に上乗せしてお店に支払っています。学生の私も当たり前納税者の一員になっているのです。他にも生活するだけで多くの税金を必ず納めています。しかし私達は一方的に税金を納めているわけではありません。それは形を変えて私達の生活に帰ってきています。例えば、蛇口をひねれば出てくるきれいな水や夜の道を照らす街灯など私達が安全で安心な生活を送るには必要不可欠なものばかりです。税金が使われているのはものだけではありません。例えば、警察や消防や救急、道路の整備、社会保障関係費、地域によっては就学児医療費など、高度な技術と知識が必要な職業の給料や資金、高度で公平なサービスを受けられる仕組みになっています。

税金は身の回りだけでなく、国全体のために使われることもあります。世界全体を震わせた新型コロナウイルス。今も感染者数や死者数が増加し続けています。海外渡航禁止や緊急事態宣言などの発令、自粛要請の影響で日本のサービス業は大打撃を受けました。日本全土の労働人口の約七十パーセントがサービス業である中で、運営が厳しくなり倒産する会社や店舗、社会人だけでなく大学生などアルバイトができなくなってしまう、家賃や学費が払えない人、観光客をターゲットにしていた観光地など、失業者も増加しています。また、マスクや消毒液などの買い占めなどで全国の店舗で売り切れが続出しました。身動きが取れなくなった中で、政府は国民を対象に一人十万円を給付、自営業の会社への手当、アベノマスクの支給など様々な政策を行いました。ここで使われているお金も税金から出されています。世界規模の感染症による、オリンピックの延期やステイホームなど体験したことのないことばかりで、不安と絶望が溢れていました。この給付金らはそんな中で「あと少しがんばろう。」と、先の見えないこの状況で少しでも希望を持った人がいたと思います。そして改めて税金の重要性を再確認した瞬間でもありました。

今まで税金の使われ方や仕組みを気にすることなく生活してきたけど、「普通」の生活を送るために税金は必要不可欠だということを知りました。人々を救っている税金は日本全体を豊かにしていることを忘れてはいけません。この先も税金とともに生活していく納税者の一人として、しっかりと税を理解し自国にきちんと納税していきたいと思いました。



柿狩り体験



11月16日、九度山幼稚園の4～5才9名の園児達が、海堀安彦さんの農園を訪れ、富有柿の収穫体験をしました。赤く色づいた柿を手に取り、はさみで上手に柿を収穫し、楽しく体験することができました。



「税についての作文」和歌山県知事賞・九度山町長賞

全国納税貯蓄組合連合会と国税庁が募集した令和2年度の中学生の「税についての作文」は、審査の結果、九度山中学校3年生の海堀亜美さんの作品が和歌山県知事賞、同じく九度山中学校3年池田有里菜さんの作品が九度山町長賞として選出されました。



▲左 海堀亜美さん 右 池田有里菜さん

◎和歌山県知事賞
「社会を支える税金」 九度山中学校 3年 海堀 亜美

わたしたちの身の周りには、たくさんの税金が存在します。その中でも一番身近なものは、みなさんが買い物をする際に払っている消費税です。消費税は主に社会福祉を支えるため、現在は国と地方を合わせて10%に増税されています。その他にも主なものとして、国に納める所得税、市町村や都道府県に納める住民税などがあります。これらの税金はどのように使われているのか疑問だったけど、わたしたちにとって身近なところにも使われていることが分かりました。

例えば、わたしが風邪をひいたとき、病院に就学児医療受給者証という青いカードを見せるだけで、無料で診察を受け、薬をもらうことができます。このとき本来自己負担するべき金額が税金でまかなわれているそうです。今までこれが当たり前だと思っていたけれど、改めて税金のありがたさに気づくことができました。

また、税金によって助けられたのはわたしの祖父母も同じです。わたしの祖父は数年前病気を患い、病院に入院しました。その際、多額の医療費が必要となってしまいました。しかし、みんなが納めた保険料と税金のおかげで、祖父は一割負担のみで治療を受けることができました。さらに、祖母が祖父の見舞いに行く際に使用するシルバータクシーチケットにも税金が活用されていることが分かりました。シルバータクシーチケットとは九度山町から町の高齢者に配布される券で、タクシーを利用する際に料金の一部を負担してくれるというものです。わたしの祖母はこのシルバータクシーチケットにたくさん助けられたと言っていました。わたしは祖母のその言葉を聞いて、シルバータクシーチケットは、遠い場所への移動が困難な高齢者にとって必要不可欠なとても大切なものだと思います。税金は医療費やシルバータクシーチケットなど、高齢者のためにもたくさん役立てられているんだと感じました。

わたしは今まで税金はどちらかという徴収されるものだと思っていたけれど、これらの体験を通して、税金は納税するものだということが分かりました。税金はわたしたちの気づかないところでも役立てられていて、みんなの生活を、そして社会を支えているのだということに気づきました。もし税金が無くなってしまったら、社会のしくみはくずれてしまい、わたしたちの生活もくずれてしまうと思います。税金はわたしたちにとって、かけがえのない存在です。

わたしが将来大人になったら、きちんと働いて、申告・納税したいです。それがみんなの幸せにつながっていくと思うからです。日本の未来のために。

子育てに関する疑問にきいちゃんが24時間365日お答えします

きいちゃんの子育て応援広場

2020年12月よりLINEとWEBでサービス開始!

健診
予防接種

施設
検索

子供の
手当・助成

妊娠
出産

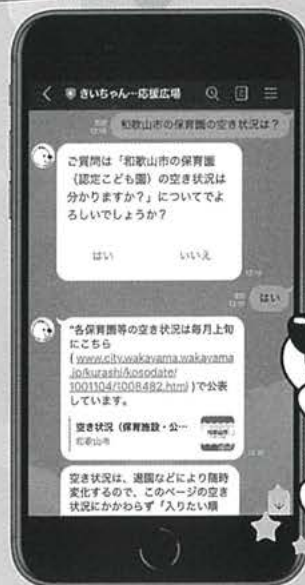
保育園
幼稚園

こんな疑問にお答えします!

健診や予防接種って
どうやって受けるんだろう?

保育園に通わせたいけど
手続きの仕方が分からない

LINEでいつでも解決!

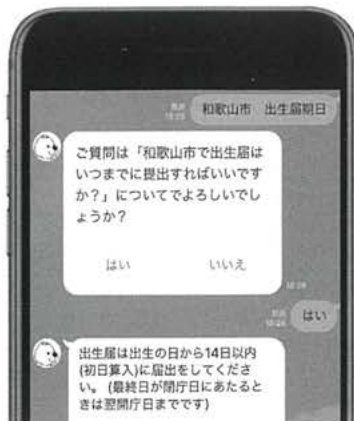


LINEで使う!「きいちゃんの子育て応援広場」使い方ガイド

使い方その1

あなたの知りたいに
きいちゃんがお答えします

「出生届の提出期限は?」など知りたいことを入力してみてね。
あなたの住んでいる町のことについて知りたい時は「和歌山市 出生届期日」など住んでいる市町村名を入れて聞いてね!
聞き方は文章でも単語でもOK!



使い方その2

近くの協賛店舗を
お探しします

今いる場所や探したい場所を検索して送信すれば、近くにある「わかやま子育て支援パスポート事業」協賛店舗が表示されるよ。行きたい施設が見つかったら「詳細を見る」をタップするとお店の詳しい情報を見ることが出来るよ!

友だち募集中!
QRコードを読みとってね!



問い合わせ先
和歌山県 子ども未来課
TEL:073-441-2492

